

アマダイ通信NO. 110

(Tile fish network letter)

2016年元旦

知人・友人各位

20世紀末の東西冷戦体制の崩壊と資本主義経済のグローバル化のうねりが、様々な軋轢をもたらす。シリアの内戦が欧米に飛び火、「戦争状態」を宣言する国も。それに乗じ内なる「国家テロ」を正当化する国、他国への武力侵略を正当化するために利用する国、自分で始めた戦争の尻拭いを一向に出来ない国も。呉越同舟、地球丸はそれでも、より豊かで自由、フラットな水平線の先を目指します。有史以来の、文字通りの弱肉強食の世界から、衣食足りて礼節を知る世界へ！新しい年も、宜しくお願い致します！

◎少子高齢化は悪いことか？

12月初め、久し振り秋田日帰り出張。旦那もリタイア、悠々自適の妹夫婦を誘い、秋田の駅ビルで早めに一杯。遠雷と共に、荒波に乗り産卵のため沿岸に押し寄せる秋田名物鱒（ハタハタ）が獲れ始め、鱒の煮付け、焼魚、ショットル鍋と鱒尽くし。少子化で人口減少率全国一の秋田県。早くも労働力不足が叫ばれるが、少子高齢化は本当に悪いことか？

少子化で労働力人口が少なくなれば、国内総生産が減少、経済力が衰え、国力が減ると大騒ぎするが、人間を機械と同じ生産力としてしか見ていないのではないか？国民のために国家があるのではなく、国家は国民のためにあるということを忘れていないか？高齢化は人間がそれだけ長く人生を楽しめるということで、結構なこと。少子化で労働力が不足するなら、女性と元気な老人が働く機会をもっと創り、技術革新で生産性を上げることだ。労働を「神に課された苦役」と考えやすい欧米人と違い、日本人は労働を自己実現、生甲斐と考え、少しでも働き、他人のため役立ちたいという想いが強い。若い時と違い、キャリアと体力、スキルに応じた働き方をして貰えばいい。働くことで、社会との関係と生甲斐を持ち続け、健康寿命も延びる。人間は生産するだけでなく、消費もし、生産と消費のバランスを取って生きる動物。経世済民（国を治め、国民を幸せにすること）が政治の目的。グロスとしての生産の面からも、労働の担い手としての人口の減少分を生産性の向上で補えば、賃金も上がり、労働時間も短縮する。一人当たりの土地も増え、地価が下がり、住まいが入手し易くなる。電車の混雑も緩和、車の渋滞も解消、観光地や美術館もゆったり楽しめる。食糧・水・エネルギー不足も緩和。メリットが多い。

歴史的に、地球上の全人口は数百万年前までは125万人以下だったが、1万年前に農耕と牧畜が発明されて5百万人に増え、以後凄い勢いで増加。5億人(1650年)が10億人(1850年)になるのに2百年、10億人が20億人(1930年)になるのに80年、20億人が40億人(1975年)になるのに45年しかかからず、2千年には世界の人口は63億人を突破。日本の人口は江戸から明治の初めまでは3千万人、第二次大戦が終わった時に7千万人。1億3千万人でピークを打って、戦後70年を経て、減少に向かう。狩猟採集社会から農耕・牧畜社会に、肥料の投下・改良と品種改良、更に農耕・牧畜社会から工業社会に変わり、化学肥料や農機具の発達で農業の生産性が上がり、耕作可能な土地の開墾も進み、食糧の生産が飛躍的に増大、人口も急速に増加する。それが更に工業化を進め、農業の生産性を上げ、

可耕地を増やし、農業と工業、人口増の幸福な三角関係を形づくる。疫病の流行や戦乱などで、地域的、一時的に人口が減少することはあっても、地球規模では人口は飛躍的に増え続けて来た。

これまで増える一方だった人口は、アフリカの発展途上国やインドなど、更に増える地域があり、近い将来 80 億人を突破するという。他方先進国やアジアの一部では減る傾向にある。一部ではあれ、疫病も戦乱もなく、医療の進歩で平均寿命が飛躍的に伸びているにも拘わらず、少子化で人口が減るといのは人類史上、画期的なことだ。人口が急激に増えることで、人間居住環境としての地球への負荷も増え、資源の枯渇や深刻な大気汚染、水不足、水質汚濁、食糧不足が危惧される。この面からも、誰にとっても住みやすい、持続可能な適正規模まで緩やかに人口が減少し、人間と人間居住環境としての地球へのストレスが緩和されるのは悪いことではない。それを前提に町創り、国創りを考える時だ。

少子化が進むのにも訳がある。若者が進んで結婚、安心して子供をつくれる社会になっていないからだ。学校を出て仕事を持ち、結婚して子供をつくり、家庭をつくるのが幸福な人生であるならば、政治が経世済民の役割を果たしていない。まずは結婚して家庭を持ち、子育てしていけるだけの仕事を若者のために用意する必要がある。子供を預けて共働き出来るだけの子育て支援も必要だ。育翁を楽しむ[●]だが、本来なら爺の助けを借りなくても子育てができなければいけない。職場での長時間労働の改善や病児保育、学童保育の充実なども必要だ。政府はフランスをお手本に、女性の出生率 1.8 人への向上を目標に掲げるが、持ち家政策一辺倒の日本と違って若者の入れる安い公営住宅を大量供給する住宅政策、大学まで無料の教育政策、非婚のカップルも家族扱いする家族政策もお手本にすべきだ。その費用は企業も含め、能力に応じて応分に負担するシステムにすべきではないか？多く稼げる者はより多く社会から利益を得ているのだから多く負担する。それを誇りとも、励みともして生きていけるし、いくようにすべきではないか！

◎故郷秋田のお米を全国に！

東名阪の有名デパートで拘りのブランド米を販売、京都駅、新大阪駅などでお握りも販売する菊太屋顧問の[●]、あきたこまちの買付けで秋田新幹線こまち号を鞭打つ。愛するこまちは何と一時間半で仙台まで走り、秋田までは四時間弱。お尻も洗ってくれる優れ物。秋田県農協中央会の米森副会長に会って頂く。前は県内の農協病院で、電源開発の井水利用専用水道システムを設置、水源を二重化、災害時に市水が止まっても井水を利用し病院事業を継続、併せて水道料金を下げる提案をするが、実現可能な所は既に設置、残った所は水道料金が安かったり、水質が悪かったり、設置不可能で役に立てず、残念。

今回は顧問先の米屋の菊太屋の社長も同行、外資系スーパーで「拘りの米」を量販する相談。担当部長も同席、打合せを進めることに。もう 1 つのテーマ、有名デパートで雑穀米を売るルート作りは難しそうで、県庁へ。雑穀米のルート作りにも目途。2 年程前訪ねた際開発中の新品種二種、あきたこまちの栽培には不利な北部の山間地用の秋のキラメキと南部沿海向きのツブゾロイが初めて栽培、収穫された。特にツブゾロイは有機栽培米で、栽培面積も広く、冷めても美味しい。外資系スーパーで販売する「拘りの米」に丁度良さそう。京都と新大阪駅、梅田の大丸地下に続き、新宿駅新南口に来春オープンする新しい高層駅ビルの商業施設ルミネの、改札の中にオープンするお握り屋で使う米にも最適か。

ルミネの新井社長には、新しいお握り屋を！と発破をかけられている。新しいお店には新しいお米が最適。新宿駅ナカの新しいお握り屋を成功させ、東京駅にも進出したい。米屋の顧問としてのビジネスが故郷のためにもなると嬉しい！

◎育翁を楽しむ

11月下旬、3連休の土曜日、7百m泳ぎ、東京地区の東大同窓会、東京銀杏会の国立劇場歌舞伎観劇会へ。既に6回開催の三鷹クラブ観劇会と同じ仕組みだが、演目を変えて主宰、初回39人の参加でまずまず。地域ではなく、三鷹寮という寮の同窓会ということで、地域同窓会の連合会の全学同窓会にはオブザーバー参加だったが、これを機会に本格参加することに。ネットワークが更に広がる嬉し。

久しぶりに引いた風邪が治りきらない内に泳いだのがいけなかったか、日曜日喉がヒリヒリ、鼻がぐずぐず。近くの高層ビルに新しく出来たクリニックへ。抗生物質まで貰い、休みの月曜日にも図書館に行くくらいで、珍しく大人しく静養。火曜日は孫達との保育園への同伴出勤自粛。銀座のママとの同伴出勤は叶わぬ夢、せめて孫との同伴出勤を楽しむためにも無茶しないようにしなくちゃと、一応反省。

久しぶりの風邪も治り、木、金、月曜と8時半に娘のマンションに行き、爺さんも孫達と元気に同伴出勤。0歳の男の子も木曜日は4時、金曜日は5時、月曜日は6時退園で、フルタイム。零歳児の部屋の入口で熱を計って、保育士さんに孫を手渡し。靴下や替えのガーゼや前掛けなどを所定の収納に入れ、ガラス越しに覗くと誕生日過ぎた他の零歳児クラスの園児と車座に座って、たった一人の零歳児も一緒に楽しそうに玩具を、振り回している。娘も産休から職場復帰、目出度し、目出度し。

次代のために育翁も体調維持に努めなければと、日曜日は久しぶりの振り、ホームコースの小川カントリーで歩くゴルフ。前半49で大台突破と力が入るが、後半は55で、中々大台突破出来ず。仲間に薦められ、日経文庫の「あなたのゴルフが100を切れない理由」を買う。

◎身代わりセカンドオピニオン！？

久しぶりの札幌へ。余裕で家出た筈が結構ギリギリ。羽田で慌ててチェックイン。財布をカウンターに忘れる。機内に入ってから気づきスッチーに言うと、搭乗ゲートへ行ってくれとのこと。ゲートに逆走すると、財布が届いている。安全、安心の国、日本！

不死身！？の🍀でも2年以上何もしていないと少しは気になって、久しぶり掛りつけのお茶の水の三楽病院で胸部のMRIと腹部のCT、胃の内視鏡検査。野生児の証の肺の黒い大きな影以外目立った異常はなし。体内から脱出、新しい宿主を探すことも出来ない弱虫の結核菌、よっぽど居心地がいいらしい。🍀と一緒に心中、煙となって天空に消える積もりか？前立腺含め腫瘍マーカーも異常なし。ピロリ菌を駆除した胃と、食道の胃との接合部に炎症があるけれど、加齢によるものと言う。大腸はポリープが出来ても直ぐ大きくなるので、今回は内視鏡検査をせず。取り敢えずがんの恐れはなしとの看立て。

ステージIの乳癌で乳房を切除、ホルモン治療と放射線治療。抗癌剤治療はしていないが体調優れず、カミさんの癌のセカンドオピニオンを求める先輩がいますかと、代りにセカンドオピニオンを求める。同学の後輩の我が執刀医、ゴッドハンドの阿川院長、虎ノ門病院で手術したなら心配ない。体調が優れないのはホルモン治療と放射線治療の副作用で、

乳がん再発の心配は必要ないと、🐟と同じ看立て。癌のことは心配せず生活を楽しみましょう！一緒に小川カントリーに行きませんか？と、先輩にメール。

保育園通いという環境の変化がストレスになったか？零歳児の孫が発熱、41度まで上がって、胃腸炎ということで、近くの聖ルカに入院。爺々だけでなく、体調優れぬ婆々も大忙し。医学の進歩は凄いが、細く短い腕に点滴の針を刺して入院。半世紀ほど前は、チフスや赤痢、日本脳炎などの感染症で、せっかく産まれても死んでいく子が沢山いた。結核を病む大人も多かった。2番目の姉は骨髄炎で足を手術、足の脛に大きな手術痕の窪みが残る。妹も日本脳炎にかかって高熱を出し、生死の境をさ迷い、葬式の準備をしたが、幸いペニシリンが手に入って生き返った。三番目の姉は二十歳の成人式の振り袖姿の写真を残して、白血病で逝った。10歳近く上の従姉妹も高校生の時、肺結核で亡くなった。

🐟の胸にも石灰化した小児結核の跡が残る。小学校入学前に結核菌に侵されながら、誰にも知られることなく、自然に治癒。小学校に入ってツベルクリンをして、異常に大きな赤い腫れが出来、能代の保健所の暗い暗室で、上半身裸で、大きなレントゲンを撮ると、肺に暗い大きな影。以来、皆が嫌がった不活性の結核菌を埋め込んで結核を予防する BCG を毎年しなくて済み、羨ましがられた。年に1日授業を休んで能代の保健所へ。暗室の中でじっとしてられず歩き回り、ストーブの煙突におでこをくっ付けて火傷したこともある。大学生になり、24時間革命のために！神をも恐れぬ若武者と恋の病に墜ちる娘もいて、結核菌の保菌者だとは意識せず、少なからず接吻もしたけれど、幸い誰にもうつしていない！？

🐟のオーストラリア紀行 I

(‘15.8.8 ~14、クラブツーリズム「オーストラリアの休日7日間」)

①プレオーストラリア紀行

オーストラリアツアーの予習開始。憧れの新婚旅行先オーストラリア！？再婚した時の新婚旅行先にと温存してきたが、今やその見込みも元気もなく、お盆休みはオーストラリアへ。

🐟の小学校入学と一年浪人で北大水産学部入学同期！？の長兄の大学の地理の教科書を読んで興味を持ったからか！？高校では地理と日本史を選び、世界史を学ばなかった。取り分けマルクスを学ぶようになり、世界革命を唱えながら、世界の歴史に疎いことを反省。海外ツアーは知と恥の欠片を埋めるいい機会だ。最初の一冊、「物語オーストラリアの歴史」(中公新書)を東京駅丸善で求め、夏休みのスタートで混雑する月島図書館で中央区の図書館の蔵書を調べ、「オーストラリアを知るための58章」(明石書店)を京橋図書館から取り寄せて貰うことに。取り敢えずこの2冊を読めば、基礎知識を得られる。旅行者の少ない途上国と違い紀行文なども多い。面白い旅行記も探せるだろう。

それにしても、太古の昔から存在したオーストラリア大陸、先住民のアボリジニが遠い昔から住んでいる。長い歴史がある筈なのに、「物語オーストラリアの歴史」は18世紀後半のイギリスによる植民から、突然始まる。歴史のない国、歴史の浅い国として、これまで食指の動かなかったオーストラリアだが、本当にそうなのか？

南半球のオーストラリアは季節が日本と逆。スキーが出来るかと思ったが、ケアンズや

グレートバリアリーフは熱帯や亜熱帯。泳げそうだ。パンフレットにはシュノーケリングという言葉も踊る。月島のプールで千m泳ぎ、潜ってみるが、25mプールの真ん中のラインまで。南の海の魚になれるか？

②「白い？オーストラリア」

「物語オーストラリアの歴史」と「オーストラリアを知るための58章」（明石書店）で「白いオーストラリア」の基礎知識を学べる。18世紀末のイギリスによる植民、開拓、ボア戦争、義和団事件に出兵、独立戦争なしで独立、「ライオンが猿を助け、狂暴な熊と戦い、平和を満喫したカンガルー」＝日英同盟の傘の下でロシア南下の恐怖から免れ、ドイツの敗戦に乘じ猿（日本）と南洋諸島を二分、南半球を手に入れ帝国化、日英同盟の破綻で猿にダーウィンに攻め込まれ、猿の敗戦で日本に進駐。朝鮮戦争、ベトナム戦争にも派兵、アジアでは「帝国」の顔。今や「爆食の国」なくして生きていけない資源国家だが、軍事的には日米と手結び、爆食の国に対抗、いつまで白と黄の狭間で揺れ続けるのか？

「物語オーストラリアの歴史」を読み終え、「オーストラリアを知るための58章」を読み始める。前者は政治主体だったので、後者で社会、経済、文化も学べると嬉しい。予習で、1週間のツアーで得るものを豊かにしたい。かつて中国の新疆を旅した時、新疆（東トルキスタン）独立運動をテーマにした「流砂の塔」を読んで心踊らせたが、著者の船戸与一が「満州国演義」全9巻を遺し亡くなった。一年間に渡り刊行されると、日経新聞に新潮文庫の広告。読み終えたら強者供の夢を追い、広大な満州、中国東北を流離いたい。「強者供」の中には、東大新人会に集い社会主義に目覚め、挫折、新天地建設を夢見て海を渡った先輩達も。中国東北の人達に取っては全く傍迷惑な「夢」だったのだが、それが「帝国の時代」というものか？オーストラリアの原住民アボリジニとイギリス人、白豪主義と黄色いアジアとの関係にも繋がるか？グルメだ、ショッピングだ、景色だなどの旅だけでなく、船戸与一と歩く中国東北の旅とか、新疆の旅とかがあってもいい。そう言えば、スペインの旅の友達逢坂剛の「カデイスの赤い星」だった。旺盛な好奇心をさらに燃え上がらせ、好奇心に翼をつけ、「赤い星」を求め、その翼を羽ばたかせたい！

旅立ちの日、「オーストラリアを知るための58章」をようやく42章まで読み進む。ブリスベン現地時間朝7時着の9時間のフライト中に読めるか？最もそれでは明日寝不足だ。帰りはシドニーからのフライト。添乗員によればオーストラリアは検疫が厳しいらしい。食品も薬も全部申告とのこと。肉類は原則加工品も駄目、乳製品も駄目、何故かカップラーメンも駄目だという。缶詰はいいというので、慌てて近くの食品スーパー、マルエツでツマミのサンマ缶やサバ缶を仕込む。いくら牛と羊の国とは言え、ツアー客のツマミのビーフジャーキーやチーズタラまで持ち込み禁止だと息巻くことはあるまい。アメリカのように独立戦争をする根性もなく、マルタのように器用に共和国にもなれない、未だに女王陛下を国王と崇め、白にも黄色にも成りきれない異色の国。

8時55分のフライトなのに何で6時20分に成田集合なの？遅れたからって天地が、世界がひっくり返る訳でなし！いつ着くかは電車に聞いてくれ！夕刻開催の東京湾大花火に背を向け、花火の人波かき分け、勝どき駅からようやく大江戸線に乗る。6時20分上野発、7時3分第2ターミナル着のスカイライナーに乗る。成田発8日夜9時、オーストラリア東海岸クインズランド州の州都ブリスベンまで9時間余のフライト。7日間の旅とは言え、

1日は機中泊。おまけに新規就航で機体は新しそうだが、座席の間隔は狭く、ANA や JAL の新機材のようにウォシュレットがついている訳でもない。店員2人が肌黒々したインディアンの成田の搭乗口前の店で、搭乗前に軽くソーセージと唐揚げ、ポテトチップスで生ビールを2杯飲み、鮭や揚げ出し豆腐の機内食をツマミにオーストラリアビールショート缶1本とオーストラリアワインミニチュア瓶1本飲み、どうにか夢路につくが、直ぐ現に引き戻され、を繰り返して眠れない。「オーストラリアを知るための58章」も読み進めない。現地時間5時半頃には「朝だ！朝だよ！朝陽が昇る」と、モーニングコール。歯も磨けず、顔も洗えぬまま、チキンと茸、野菜の入った玉子粥をお腹に入れると間もなくブリスベン着。亜熱帯に位置するとは言え、南半球故、日本とは季節が逆の冬、到着時の気温9度。最低気温25度の北の「熱帯夜の国」から来たTシャツなし、前開きの半袖シャツに沢山ポケットのついたツアー用の青いチョッキと、麻混のジーンズ姿にはちと寒い。スーツケースを受取ると薄いセーターを慌てて重ね着。

③文明と産業の興亡

ブリスベンはオーストラリア第三の都市で人口225万人、ビーチリゾート、ゴールドコーストの玄関口。雲一つない青空が広がる。全長300キロ余、ほぼ日本最長の信濃川と同じ長さの大河、ブリスベン川に沿って街が広がる。川にはヨットやクルーザーが浮かび、川辺にはしょうやかな邸宅やマンションが佇む。多様な時代、多様な国の様式の新旧の建物が、南国を思わせる木々の緑に溶け込む。「歴史の浅い」国とは言え、信者の寄金で数度に渡って増築されて来た市民の心の依り所セントジョーンズ大聖堂や時計台のある市庁舎などの、それなりに由緒ある建造物の連なる中心部、シティを走り抜け、市街を一望するマウントクーサー展望台へ。緑の間を見え隠れしながら大きく蛇行する大河が形づくった広大な街の、おへその様な中心部シティだけに高層ビル群が固まって聳え、出べその様だ。その急坂を登るサイクリストも多い。展望台脇のカフェはそんなサイクリストやドライブを楽しむ市民、観光客で一杯だ。

続いてシティの南西11キロのローンパイン・コアラサンクチュアリーへ。1927年開園、ギネスブックに登録された世界最大、最古のコアラ園で130頭超のコアラが飼われている。コアラの餌はユーカリの葉っぱだが、オーストラリアの樹木の4分の3はユーカリが占め、500~600種類あるという。オーストラリアでは電柱もユーカリだ。真っ直ぐ伸び、成長が早い。ここではより自然な形でコアラが見られるように、ユーカリの木にコアラを放し飼いにしたコアラキングダムがあり、コアラを抱いて写真撮影をする。コアラ以外にも80種超のオーストラリア固有の動物がいて、カモノハシやワライカワセミは見たがタスマニアデビルは巣穴に閉じ籠ったか、気配も感じられない。広い園内ではカンガルーやワラビー、エミューなどが放し飼いされ、柵の中に入って餌付けも楽しめる。他にも羊の毛刈りショー、牧羊犬のショーなどもあり、色とりどりの肌色の沢山の家族連れを楽しませている。

ブリスベンの次は車で南へ1時間、およそ60キロにも及ぶ黄金色のビーチを持つ世界有数のリゾート地、ゴールドコースト、その中心地サーファーズ・パラダイスへ。南太平洋の白波が押し寄せ、サーファーが打ち寄せる波と戯れ、白いヨットやクルーザーが浮かぶ海辺。クルーザーが白い小波を残して走り、岸辺にヨットが繋がれ、内陸深く幾重にも

穿たれた緑濃い運河の両岸には1部屋1億円以上するコンドミニウムや高層ホテルが並び、世界中の金持ちが買い求めるという。原住民アボリジニの6万年も前からの父祖伝来の地の原生林に、植民者が突然斤を入れ伐採、雨露を凌ぐ建物や移動の手段としての船を造った。更に産業革命で禿げ山となった母国英国へも輸出されたのかも知れない。木が切り払われた土地には綿や小麦、砂糖黍、牧草が植えられ、狩猟採集の生活から、一大農業国家へと突然姿を変えたオーストラリア。主人公が代わり、文字を持たないアボリジニはその文明と歴史を喪う。あまつさえ、タスマニア島のアボリジニは絶滅する。

その広大な農地や放牧地に運河が穿たれ、運河を挟んだ両側に高級な邸宅や別荘が広がる。広大な国土に広がる国民の移動手段は飛行機と車。車全盛のオーストラリア、2300万人の人口では国内市場は狭く、高賃金の国から輸出するには高コストで、自動車産業は育たず、三菱に次ぎフォード、GM、トヨタも撤退するという。自国に新産業を興そうと、輸入品に高関税をかけて外国企業を誘致しても、他の輸出国と競争して稼ぎ頭の鉱物資源、農産物を輸出、外貨を稼ぐためには、食糧、資源に乏しい工業国に求められれば高関税で自国企業を守り続けることが出来ないジレンマ。かくしてトヨタ、ホンダ、三菱、ニッサン、スズキと日本車が幅をきかせる。マツダのカブリオレ、ロードスターばかりか、1台だけだが、かつての我が愛車、可愛いオープンカー、ダイハツコペンも風切って走る。(続)

◎「TPP と日本の農業政策」・東大三鷹クラブ第124回定例懇談会のご案内

TPP 参加が決まり、日本の農業政策の大転換が迫られている今、名古屋大学大学院生命農学研究科教授で農業経済学の権威である生源寺眞一氏（S45年入寮）に講演をお願いしました。愛知県旭丘高校卒、1976年東大農学部農業経済学科卒、同年農林省農事試験場研究員等を経て1987年東大農学部助教授、1996年同教授、2007年から2011年東大農学生命科学研究科長・農学部長、2011年から現職。この間、日本フードシステム学会会長、農村計画学会会長、日本農業経営学会会長などを務められ、現在、食料・農業・農村政策審議会会長、日本学術会議会員、生協総合研究所理事長。

生源寺さんの三鷹寮在籍期間は短く、皆から寮委員長に推されるなど人望が厚かったにもかかわらず早く三鷹寮を去ったことは残念でしたが、今のご活躍を見るに「それが良かったのかも」と思わざるをえません。

農林省から東大に戻られたとき、仲間と研究室に伺いましたが、その時「農林省から文部省への出向」と生源寺さんが言っておられ「へえ、そんなことがあるんだ」と思ったことや、その後会社から命じられ、日本経済調査協議会の「魚食を守る水産業改革」に委員で参加したとき、生源寺さんが顧問として名を連ねておられたので、会えるのを楽しみにしていたのに、正に名を連ねているだけだったので真に残念だったことを思い出します。

さて生源寺さんは自公政権末期、自民党農林族の反発に遭いながらコメ政策の改革を打ち出した石破茂農相のブレーンと目された人物であると巷で言われております。また2010年10月1日の菅首相の所信表明演説での唐突、説明なしの農政変更を批判するなど、改革論者でありながらも常に冷静に現実認識に基づいた農政論を展開されています。TPP 参加が決定され待ったなしの今、生源寺さんがどのようなことを感じ考えておられるのか・・・私も楽しみしみにしております。

(昭和45年入寮 長谷川 寿 記)

日時：平成28年2月1日（月） 18時30分～21時（開場 18時、会食 18時30分～）

場所：学士会館本館 302 号室（千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931）

会費：5000 円（会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み）

定員：50 名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません）

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

二次会：別途 近くの中国料理店 SANKOUEEN で、講師参加で行います。

◎90 周年、新装の安田講堂へ！

10 月半ばの土曜日、母校のホームカミングデーへ。国立大学も独立行政法人化されて以来、国費の投入が減り、減った分を他で補わなければいけないが、授業料を野放図に上げる訳にもいかない（因みに現在の入学金は 28 万 2 千円、年間授業料は 53 万 5 千 8 百円）ので、東大も同窓会をつくって卒業生を組織、協力を募るのに忙しい。その一環で年に一回ホームカミングデーを開催、周年同窓会や有名 OB を講師に各種講演会などを開催、同窓生の結集を呼び掛ける。講演会は誰でも参加でき、受講料無料、講師も多彩で聴きごたえのあるものが多い。あなたも如何ですか？

今年は昼の卒業 45 周年パーティーから参加。11 年間も学生をしていたので、毎年参加出来る！？夕方からは北京東大会の同窓会へ。日本と中国の若い同窓生と交流。中国語クラス同期で、三菱商事 OB の宮内君が東大北京事務所長なので、最後のキャリアがパナマとベネズエラ大使だが、外務省チャイナスクールの下荒地君と、中国には色々縁があると押し掛ける。北京の大使館や大学に派遣されていた霞ヶ関や商社の駐在員の後輩がいて、その中に三鷹寮の若いのもいたりして収穫大。来年も参加しよう。

パーティー会場は三四郎池の上の山上会議所。昔は教官用の食堂や会議室があり、東大闘争中は「教授会粉碎！」と言って押し掛けていた。木造 2 階から地下 1 階地上 3 階、鉄筋コンクリートの立派な建物に変身、教授会粉碎！を叫ぶ若者はもういない。パーティーの間に新装なった 90 歳の安田講堂で東大オーケストラの公演を聴く。学内アルバイト団体の学増（東大学力増進会）が教科書作成の打合せなどによく使っていた喫茶店ころにも顔を出す。少し年上のおじさん、おばさんも元気。時代がそのまま残っている。

◎お陰様で 110 号（結びに代えて）

12 月頭の土曜日、三鷹寮での「三鷹市民と東大三鷹国際学生宿舎生との交流の集い」に参加。社会人の参加者が圧倒的に多いパーティーもアルコール抜き。一気飲み死亡事故の影響大。企画・進行役の寮生もテキパキ活躍、駒場で図学を教える館知宏助教の「折紙の科学」の学際的講演も、先端科学の成果を、折紙に託して分かり易く教えてくれる。

気がつけば本通信も 110 号。「郵便局の革ちゃん」こと🐡、郵便局長の兄への営業協力で、田舎の郵便局から切手を取り寄せ、一時 3 千部以上を隔月に郵送。兄の引退後、半分はメールに切り替えて頂くが、資金的にもよく続いたものだと思う。これも偏に読者の皆様のお蔭、学生時代以来のネットワークの賜物と多謝。それにしても物好き、厚顔無恥、傍若無人に、我ながら啞然。

唯一欠けていた 12 号を、全号保存してくれていた中学の恩師工藤哲弥先生から頂き、ホームページ（🐡名か東大三鷹クラブで検索可）に載せました。恩師に多謝。（再見！）